

周波数ひっ迫対策技術試験事務 令和3年度終了評価結果

| 案件名 | 実施期間 | 評価会での主なコメント | 評価点 |
|-----------------------------------|--------|--|-----|
| 非静止衛星通信システムの高度化に係る周波数共用技術に関する調査検討 | H30-R2 | <ul style="list-style-type: none"> ・周波数共用の可能性を確認し、非静止衛星通信システムの高度化の可能性を示すなど、周波数ひっ迫対策に資することから、総合的に見て有益であった。 ・本技術試験事務では、対象とするシステムがグローバルかつ多様であり、諸外国の動向の把握が極めて重要となるが、それらの一般的な部分を抽出して、包括的な技術的条件の絞り出しを行った点が評価できる。また、技術基準への反映についても、電波法関係省令改正が既に実施されているものもあり、制度整備へ向けた着実な取り組みがなされている。 ・4つのバンドにおける非静止衛星の導入に伴う干渉について見通しを得て技術基準等へ反映したことは有益である。 | 4.2 |
| 災害時通信安定化のための衛星システムの高度化に関する調査検討 | R1-R2 | <ul style="list-style-type: none"> ・降雨時にも安定した通信を確保するための衛星通信システムの通信方式の技術に関する調査検討をおこない、ACMを用いるKu帯衛星通信システムの新たな技術的条件案を検討しており、成果目標は達成されたと判断する。 ・高度化したKu帯衛星通信システムの導入の効果を実際の機器を用いて調査検討し、これを導入するための技術的条件案をとりまとめ、今後の技術基準に反映する準備が整ったことは有意義である。 ・技術基準が策定され、その結果ACMが導入可能となる目途が得られ、降雨による通信不通時間が大きく削減できる目途が得られている。 | 3.8 |
| 900MHz帯を使用する新たな無線システムの導入に係る調査検討 | R2-R2 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルMCAの高度MCAへの移行に必要な技術調査およびそれに伴う空き周波数の利用を新たに希望するシステム提案について、導入に必要な技術調査検討が行われ、移行および新システム導入に必要な技術基準策定への道筋は作られたと考えられる。 ・候補システムのニーズ調査からみたシステムの優先度と技術的な面からみた共用可能性について、有意義な初期検討ができたものと判断される。多様なシステムを対象に、共用条件としてどこまで一般化できるかが今後の課題と思われる。 ・該当周波数を用いる複数の新たな無線システムに関する制度化に関する本試験事務の成果は、種々の新たなサービスを生み出す基盤となるものであり、社会全体に対して有益なものとなると判断できる。 | 4.1 |
| 動的な周波数割当に向けた無線局間の共用に関する調査検討 | H30-R2 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共業務と民間企業が多く利用する、1.2GHz帯及び9.4GHz帯の周波数について、場所・時間等を考慮した動的な共用方法を検討し、共用条件案及び運用調整手法を提案している。また、導入が計画されている9.4GHz汎用型気象レーダーに対する共用条件案策定の基礎資料として本検討の結果等を入力する予定であり、有益であったと判断する。 ・我が国と国民の「安全安心」にかかわる点から重要性が高く、非干渉に対しては相当な余裕を確保していた公共業務用レーダーに対しても、干渉調整のうえで周波数共用が可能であることを明確にした点は、特に有益であったと認められる。 ・今後は、これらの成果を具体的に技術的条件へ反映させていくことが期待される。 | 3.9 |